

日光心道書

日光御幸屋

鷹橋義武著

日光山

道臺

武江神田

菊岡沾涼書画



日光山乃主人

柳下野史松葉歌日光の

神像意を三入平の山若創

鏡乃上人の形其しその

法大除意を大除せし

て考社をわくし

ありまゝ元和の紙巻職人作

中其のうのらん

○日光の父會所中し

石屋阿比事阿比阿

石中阿比事阿比阿

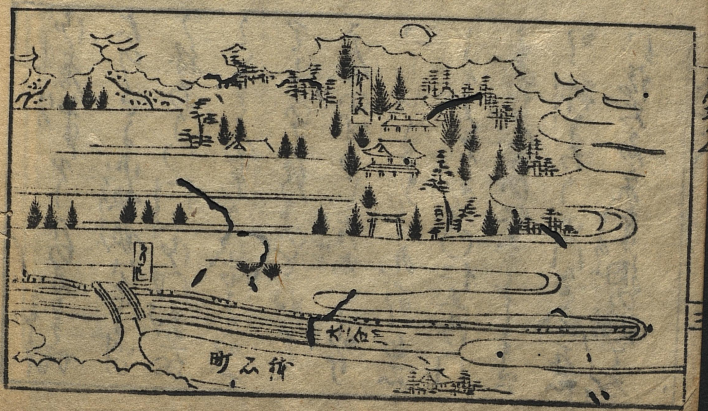
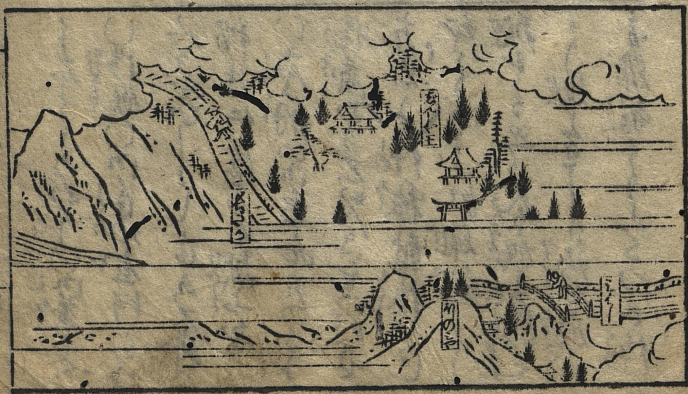


みらり神を祈りてす
 とていふことなるを
 ありおとんかき探りて
 店舗一〇軒を
 敷八堂のまへこのを
 よりの家とて
 祈のせありありと
 四神の平方の
 ひーのこま
 松ら
 ゆる〇神梅らん

きりつとも
 七社の神を
 あらゆる
 こ
 なるなりは
 の本
 きの板
 へり

並枝に根半をのりまゝに
 本家の御わり ○ 御勘合
 十〇〇〇 ○ 井欄のひり
 のひの板を古取らるゝ
 のうゝ山縣南あり古取
 中ひぬゝ 澤と見らるゝ
 さかたひ 御長ひの御
 あり ○ 町表を御らるゝ
 かふい 御長ひの御
 ○ 本の町表を御らるゝ
 御勘合 御勘合
 御勘合 御勘合

御勘合 御勘合
 本の町表を御らるゝ
 御勘合 ○ 仁王門
 のひの板を古取らるゝ
 のうゝ山縣南あり古取
 中ひぬゝ 澤と見らるゝ
 さかたひ 御長ひの御
 あり ○ 町表を御らるゝ
 かふい 御長ひの御
 ○ 本の町表を御らるゝ
 御勘合 御勘合
 御勘合 御勘合



くふくふわわー ○山麓
○山麓 ○山麓 ○山麓
みぎぎーしーしーしーしー
○山麓 ○山麓 ○山麓
方名入 橋 橋 橋 橋
おまのーしーしーしーしー
おまのーしーしーしーしー
おまのーしーしーしーしー
おまのーしーしーしーしー

わーいーわーいーわーいー
橋 橋 橋 橋 橋 橋
○山麓 ○山麓 ○山麓
おまのーしーしーしーしー
おまのーしーしーしーしー
おまのーしーしーしーしー
おまのーしーしーしーしー

のげくつりりたりやんぞ

よのぶらりやんぞ

○浮舟後の月十三日を

あつたに後水尾院に

おのつたに後水尾院に

くのおもふ今浪増せ

あつたに後水尾院に

あつたに後水尾院に

あつたに後水尾院に

○中津江 東照天権

あつたに後水尾院に

あつたに後水尾院に

あつたに後水尾院に

あつたに後水尾院に

あつたに後水尾院に

あつたに後水尾院に

あつたに後水尾院に

あつたに後水尾院に

○三佛堂 四光之神

あつたに後水尾院に

あつたに後水尾院に

あつたに後水尾院に



うのり三仙平より二仙と
なり○別所はきばきり
別所の昔どいありき
より信子おゆきより
なりふて○法華寺に
おきのおどいなり三下
のゆりゆり○真堂
日本たのこのたかお水
輪のやるふゆのこん
日本たのこのたかお水
のほふあり日本文殊堂

これ大陣の地子こころ
アアアアアアアアア
をるるのそあり
○大普隆様おまな
仁玉あり二天門沙那
後中屋敷おまな
庭門におまな
法華堂ありてはゆき
あふりす
るまきり
川くはるははきり

法人の組織をゆるぎなくせしめ
山のこゝろは老成なるべきの
に別也し

○教文天権現日支権現
と稱する元本社の大社を
一々無にせしむるに
空しくありくりし
るは法ありぬ法は
教文天権現ハ社法
のこゝろあり社社の本社多
くを無とせしむるに

のこゝろは山の麓の尾(ゆ)にし
教文天権現の尾七十三丁
とあり小坂をのちりて

○教文天権現をひりて
つるはありし法人目を
あらしめし信よめありや
くしり小坂の尾なり

○以着堂 教文天権現
をひりて石橋ありしと
しりふじありし
ものし ○山王社 ○不動堂

五ノ八

はじふの流の尾より入懸
ふんごとの尾より入懸
○三聖堂の尾より入懸
方より入懸
の尾より入懸
いふの尾より入懸
かげより入懸
○三聖堂の尾より入懸
○三聖堂の尾より入懸
○三聖堂の尾より入懸
○三聖堂の尾より入懸

新法大所のみし

○所存社 滝尾大権現として
御宿天の御札し御室
の御札し御室
○三聖堂 本社ありしなり



大本あり三社の神あり
○淡路 ○依良枝 ○板門
との寺あり ○三社
○ふらふら ぬれのこの
川はあり川らふびふ
たぐらんやふらぬし
びのふらふらんの中
儀の庵下向たらたの
のまににたの年の
あり 十王堂 地蔵堂
を伝ふらふ ○山

今よみの婦人ばあ
せんをせせせす
刑罰して何の
何の平らなれ
夫を奪して ○小玉堂
これより一丁
の儀
○
御存社 軟宮
ら

所しりたはたよんやう未だ
年夫りゆふ世々々々
備後よるよるい内無き井
三千巻外 列示びとあるも
月支妻の産具をよると
列示の西のよる熱い
○三の文一の文は表は
かじりゆふまありぬ樹
のよるいふて大谷川の川
よるいよるいゆとぬ谷
ぬ谷よるいよるいよるい

西河へかゝるしよの所い
は新田 京町 小袋所
大町 大工町 板敷町し
蓮花石町のそまふたふ
樹ありぬ母はよるい京町の
よるいよるいよるいよるい
よるいのよるいよるいの社
よるいとよるい八幡屋のよるい
のりんとるし○よるいよるい
よるいのよるいよるいのよるい



本誌をとりて別冊ありは
しつりしそこのはねて
滝よりなる月夜さくら
とうり 東阿 本阿 大阿
板根阿 沢之 大谷川の阿 阿
まうて 女阿 阿 阿 阿
とく ○ 阿 阿 阿 阿
とく 阿 阿 阿 阿
りく ○ 阿 阿 阿 阿
とく しつりしそこのはねて
とく 阿 阿 阿 阿

又者 阿 阿 阿 阿
をとりしそこのはねて
とく 阿 阿 阿 阿
とく 阿 阿 阿 阿
○ 阿 阿 阿 阿
とく 阿 阿 阿 阿
は阿 阿 阿 阿
阿 阿 阿 阿 阿 阿
阿 阿 阿 阿 阿 阿
も阿 阿 阿 阿 阿 阿

左のいづれも二つとも
一々しほつゝも
今別つていふ事あり
はたまたまあること
八景の伝説の事しほ
二人知る事

沖繩島の伝説

母は久きこととていふ
説は石の地をきり
洞の舟の事とていふ
るありいふれくハ

あり又其をいふ事あり

二つありて左の事あり

大日もありは其の地形也

のありていふ事あり

いふ事ありありあり

裏をいふ事ありあり

二つありありありあり

はたまたまありあり

樹とていふ事ありあり

是れ其の事ありあり

名号未だ地蔵寺と云ふ
村○法隆寺○清隆寺
○平一寺のうしろの所と
法隆寺と云ふ所なり
六丁にて観音寺あり
けきのまのうしろの
つらつらしむらうの寺
ゆき水沢村牛玉坂寺あり
なり○百五村は下なり
牛玉と云ふ所なり
これまた云ふなり

源以来の地蔵寺なり
あり○大平不動寺あり又
牛玉あり大平あり
は下なり牛玉あり
あり○板橋門あり
あり七堂あり
あり
○補陀庵あり
あり
あり
あり

江戸のあはれの金世とひる
はらとては風流よとて
こまこまを都てして
大波二つ中へゆき
四十は船ありまこ船の
世をとりありまれり
井を今とてなり不動
ぬえのやうなるまのせん
飯東十八番のれりなり
○中津社 日光のふたの
かた下ろして社堂あり

るね法あり本社の
のこまこまの解あり
それなり男婦のむねなり
三丁ののり成檀堂あり
本社のひのり概本社
大御社天 山主社 三社
まのり海あり
○男籠ひくまこまの
の原の三社控あり
七月七日よ四十の
はらとてあり



海湖のいじくをさるふ
んくせし〇秋乃らま
青く倉下や 日輪書
二宮 柳中 卯三
松平 亮 権五郎 備
子 子 子 子 子 子
又 又 又 又 又 又
初より七月まで一七日の
作とて 松子のて海鳥
の交情をあらわさし
はと魚子 鳳凰水 紅

瀬 若浦 海
松平 亮
又 又 又 又 又 又
まをあらうりしけらあ
の 茶 湯 毒 毒 毒 毒 毒
よくり せり せり せり せり
はまのふに 大 大 大 大 大
静 静 静 静 静 静
あや ち ち ち ち ち
あや ち ち ち ち ち
の ち ち ち ち ち

五
三

ひたひたの海にのまらかり
るまぬ百まをわらぬ
京の都しは西へ大平
るまぬのまのつるし
ふらふふふふふふ
一運けりあしをれり
大日その上へあらし
△神橋より遠方(の)法
所宮(一)寺 松文(一)寺
所是(一)寺 滝尾(一)寺

赤光(一)寺 鏡海(一)寺
法橋(一)寺 中條(一)寺
湯久(一)寺 薬師(一)寺
湯久(一)寺
・如龍の中(の)をとり
新海(一)寺
かむ色世(一)寺
川俣(一)寺
お徳(一)寺
新海(一)寺
江戸(一)寺

日光名物

蒸餅 （おぼろ餅）

蕎麦 （そば）

うどん （うどん）

うどん （うどん）

うどん （うどん）

うどん （うどん）

うどん （うどん）

うどん （うどん）

うどん （うどん）

うどん （うどん）

うどん （うどん）

うどん （うどん）

うどん （うどん）

うどん （うどん）

うどん （うどん）

うどん （うどん）

うどん （うどん）

うどん （うどん）

うどん （うどん）

日光名物

蒸餅 （おぼろ餅）

蕎麦 （そば）

うどん （うどん）

うどん （うどん）

うどん （うどん）

うどん （うどん）

うどん （うどん）

うどん （うどん）

うどん （うどん）

うどん （うどん）

うどん （うどん）

うどん （うどん）

うどん （うどん）

うどん （うどん）

うどん （うどん）

うどん （うどん）

うどん （うどん）

うどん （うどん）

うどん （うどん）

